

障害と向き合いながら、 家族とともに生活したい

SITUATION.

現在の生活状況 について



高橋 春雄さん (仮名)
63 歳

身体 の 状況

要介護度 3、身障手帳 1 種 2 級
脳出血による左片麻痺
左視力低下

家族 状況

家族 7 人暮らし

福祉 サービス 利用 状況

デイサービス：週 2 回

住まい・福祉 用具 の 状況

2 階建て一軒家
段差解消、手すり設置済み
介護用電動ベッド貸与
四点杖、ポータブルトイレ

高橋春雄さんは、農業を営むかわら馬や牛を飼育して家族を養ってきました。元来人付き合いの良い気さくな性格で、家族関係も良好で妻の雅子さん（仮名）と長男夫婦と孫・実母・実弟の7人で暮らしていました。

春雄さんは半年前に脳出血を突然発症し入院していましたが、2週間前に退院することができ、現在は家族とともに自宅で生活しています。

現在、春雄さんは左側の手足に麻痺があり不自由で、身体障害1種2級と介護保険制度では要介護3の認定を受け、週2回のデイサービスを利用しています。入浴はもちろんですが、デイサービスで友人と会えることを楽しみにしています。

身体 の 状況 は、左側 の 手足 が 不自由 ですが、手すり や 壁 を 上手 く 使い、何とか 立ち上がり が 可能 です。四点杖 を 用いて 少し の 距離 で あれば 歩行 出来 ますが、たびたび 転倒 を 繰り返 している こと から 春雄 さん は 不安 が あり、転ぶ こと が 心配 だから そば に ついて いて ほしい と 家族 や デイサービス の 職員 に 言 います。

排泄 は 尿意 を 感じる こと は でき ますが、日中・夜間 と も 1 時間 毎 と 多い ため、夜間 は ベッド サイド に ポータブル トイレ を 置いて 使用 して います。周りに 支える 物 が ない ため 雅子 さん の 介助 が 必要 です。

現在 は、妻 の 雅子 さん を 中心 に 介護 を して います が、家族 全員 が「自分 で できる こと は、自分 で して ほしい！」と 考え、多く を 手助け し ない 方針 で、家族 の 最低 限 の 見守り の みの 状況 です。雅子 さん も 甲状腺 の 持病 が あり、無理 は し たく ない と 感じる 部分 が 強く、また 家族 も 自分 たち の 都合 も あり、耳 を 貸さ ない こと も ある よう です。

ただ、若く して 発症 し た ため が、病気・麻痺 に ついて 受入れ が たい 状況 が ある よう で、春雄 さん の 家族 に 対する 依存 度 が 強く、思っ た よう に すぐ に 動い て くれ ない と 興奮 する など、介護 に 対する 春雄 さん の 思い と 家族 の 意向 に ズレ が ある よう です。

春雄 さん は 日中 トイレ へ 行く 以外 は 動こう と せず、疲れた と 言っ て は 横 に なっ て います。家族 と して は「これ から 農繁 期 に なり 忙し くなる ため、なるべく 自分 の 事 は 自分 で できる よう に なっ て 欲しい。」「デイサービス の 利用 を 増や したい」と の 希望 が あり ます が、その 考え に 対して 春雄 さん は 消極 的 で、日中 トイレ へ 行く 以外 は 動こう と せず、疲れ やすく、すぐ 横 に なっ て いた い よう です。



ADVICE. 専門家からの 助言

安心して生活していくための 様々な方法や工夫を考えてみましょう。

1 本人・家族も障害の状態を把握し、支援方法を確認しましょう。

春雄さんの心配や不安をよそに、ご家族は「できる事はしてほしい」と考えていますが、内心は「手をかけたくない」という思いもあるようです。

本当に危険がないのか、本人と家族が障害の程度をきちんと理解・把握することが必要です。何ができて、何ができないのが明確にし、そうすることで必要な介護、福祉サービスを確認し介護に対する本人と家族の意向のズレが解消されるでしょう。

2 身体機能を維持するために支援方法を検討しましょう。

在宅生活復帰に伴い、春雄さんは非常に緊張している様子で、杖を必要以上の力で握っている様子が伺え、また、自身の障害と向き合うことに対しても、精神的な負担もあり、疲労度も高く、横になる時間が増え活動力が低下することも考えられます。

身体的・精神的な機能の維持が図れるよう、自宅での暮らし方やデイサービスでのかわり方やリハビリ実施などサポートしていく支援方法を検討しましょう。

3 一人の時間を見守る態勢を考えましょう。

これから農繁期になると、家族も忙しく日中一人で過ごす事が多くなるようです。幸い春雄さんは人との交流は大好きで、デイサービスも楽しみにしていることから、閉じこもり防止や社会的交流関係を持つ良い機会になっているようです。デイサービスの利用回数を増やすことも考えましょう。

また、一人で日中を過ごすことが多くなると、どうしても動くことが少なくなり、機能低下や肥満が気になります。リハビリの実施についても合わせて考えて行きましょう。